

北海道の体育

体研連ミニ広報

No. 3

平成31年1月11日(金)

全道研究担当者研修会

平成30年12月14日(金)に全道研究担当者研修会が、札幌市立札幌中学校で行われました。今回は、国立教育政策研究所(以下 国研)の教育課程研究指定校事業の研究授業に、本連盟の全道各地の研究担当者が一緒に参加させていただく形での開催となりました。大雪の降る悪天候の中、10支部より30名と役員・事務局員27名を合わせた57名の参加となりました。

例年と流れを変えて……

例年行われている研担研であれば、事務局研究部より提案授業の主張について説明があった後、授業を参観し研修会に入るといった流れですが、先にも述べましたように、国研の授業研に参加させていただくという開催でしたので、先に研修会を始め、その後、授業を参観し討議するという流れとなりました。

体研連 中野 正毅委員長の挨拶で会が始まり、続いて、体研連 大牧 眞一事務局長より全道代表者研修会以後の経過や今後の予定が報告されました。その後、各支部の研究推進に関する取組や事務局研究部より全道大会渡島大会の報告、60年史発行に向けての進捗状況や購入依頼等のお話がありました。

《研究授業》

研修会后、事務局研究部より、本日の提案授業の主張が説明され、中学1年の「バレーボール(球技)」と「ストレスの対処(保健)」の2本の授業を参観しました。

「バレーボール」の授業では、それぞれのチームで課題となる部分(「拾う」「つなぐ」「返す」の3場面)を考え、弱い部分を強化できる練習方法を選択して「拾って、つないで、返す」ことができるようにしようという「思考・判断・表現力」の獲得に特化した授業でした。「~ので、〇〇という練習をする」とカードに明記し、チームごとに練習を始めましたが、「~ので」の根拠の部分に教師が強く関わり、練習方法を考えさせる姿が数多く見られました。

「ストレスの対処」の授業では、養護教諭も参加して、保健室来室の60%が内科的なもの、さらにはその半分がストレスからくるものであるという話題から、どうストレスに対処していくかを考えさせる授業でした。受験編と人間関係編の2つの事例がありましたが、受験編は個人で対処の仕方を考えさせ、人間関係編は個人で考えた後、グループ交流する形で対処の仕方のベストを相談させていました。バレーボールの授業同様、積極的に生徒に関わり、対話を充実させていく教師の姿が見られました。



全道研究担当者研修会全体の様子



1年 バレーボール(球技)



1年 ストレスの対処(保健)



高橋調査官(左)と横嶋調査官

授業討議は、札幌市教育委員会 岩田 悟指導主事の司会の下、各支部から参加された研究担当者より、成果や課題について活発な交流がなされました。札幌市教育委員会 大井 一雄指導主事からのご助言があり、その後、国研の高橋 修一教育課程調査官と横嶋 剛教育課程調査官からのご助言をいただき、体研連 和田 正教副委員長の挨拶で閉会となりました。

※各支部の報告などは、機関紙 114 号にも掲載されます。

(文責：広報部 三浦 祐大)